

8 あなたとともに、めざす姿へ

私たちの暮らしは人と人が関わり合うことで成り立っています。しかし、人の暮らし方が変わり、人と人とのつながりが弱まることで、孤独や孤立を感じる人や制度だけでは解決できない課題が増えてきています。

一方で、「誰かの役に立ちたい」「誰かとつながりたい」という思いや「こんなまちにしたい」「こんなことに挑戦したい」という希望を持った人たちも、地域にはたくさんいます。

そんな誰かの願いを応援する、自分の願いを誰かが応援してくれる。「支える/支えられる」という関係性を超え、「やってみたい」や「応援したい」を入り口にして、多くの人に関わり合いながら、自分らしく生きていくための願いを叶え合っていく。そんな出会いと思いの循環が、まちのあちこちで起こっていくことをめざします。

支え合いながら、お互いの願いを叶え合っていくまちへ。

そのために、第2期プランの取組みを、まちをつくる主役である地域のみなさん一人ひとりと、市社協、市とで、ともに進めていきましょう。

めざす姿の具体像 ～支え合うところあふれるまちってどんなまち？～

「みんなでつくる 支え合うところあふれるまち くるめ」の具体的なイメージを3つの場面で描きました。

地域で

- ・多様な居場所が地域のあちこちにある
- ・人のつながりや多世代の交流が自然と生まれる
- ・自分の思いや願いを発信、語り合う場がある
- ・それぞれの「叶えたい」が結びつく機会が豊富にある
- ・お互いを思いやり、それぞれが“できること”で助け合える
- ・地域活動に企業や団体がつながるための場やきっかけがある
- ・希望を語り合うことが増え、夢が地域で少しずつ形になっていく

これらを促進する地域の基点として、『支え合い推進会議』（資料編参照）を位置づけます。

困りごとを抱えたときに

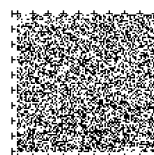
- ・困ったときの相談先が誰にでもある
- ・公的制度以外にも、地域生活の課題を解消・緩和する選択肢がある
- ・その人の興味や関心、願いにも着目し、本人を中心とした支援が行われる
- ・公的制度を使った「フォーマルサービス」と地域の支え合いの「インフォーマルな力」が融合し、選択肢が広がる（※「2車線の支援」は資料編参照）
- ・複合狭間の課題でも、支援関係機関が連携して受け止められる

これらを促進する手段として、『重層事業』（資料編参照）を展開します。

災害に備えて

- ・誰もが安心して避難できる環境が整っている
- ・楽しみながら防災を学ぶ取組みがあり、地域全体の防災力が向上している
- ・「災害時マイプラン」の作成や、要支援者への避難行動支援を通じて、顔の見える関係ができ、地域の支援者も社会資源を知る
- ・災害時には、地域の様々な人や組織、団体が、それぞれの立場でできることを協力して行える

これらを促進する取組みとして、『災害時に備えた平時からの取組みについて』（資料編参照）を推進します。



社会・経済活動の基盤としての地域



就労や社会参加の機会の提供・
多様な主体の生活支援への参入

人と資源の
循環

地域資源の有効活用・
働き手の創出

企業・商店
医療機関 金融機関
NPO・ボランティア団体
学校 社会福祉法人

すべての人の暮らしの

多様な主体が地域づくりにつながる
ための場や仕掛け

生活支援体制整備事業

地域住民や多様な主体とつながり、
地域の現状や将来像を共有し、
地域の中で協働しながら新しい
価値を生み出すことを支援する

生活支援コーディネーター
の配置

重層

伴走

支え合い
推進会議
(校区ごとに設置)



地域コミュ
ニティ活動

PTA・
こども会
活動

お祭り

健康
教育

多様な居場所が地域の
人のつながりや多世代の交流

市民活動
サポート
センター

介護
予防
活動

認知
力

多様な主体の力を活かした地域づくりへ

個別支援の成果や課題も踏まえて、地域課題・
ニーズを把握検討し、地域づくりへ還元する

地域にある営みとつながり、
協働できるネットワークを拡大

地域の気づく力、支え合う力が高まる

課題発生の予防や早期相談、選択肢のひろがりなど、
「困りごとを抱えたとき」を支える力も高まる

困りごとを抱えたときに ～選択肢が広がる支援体制～

「公的な制度を使った支援」の車線

包括的な相談支援体制

主な相談窓口

長寿支援課	(委託)地域包括支援センター	高齢
障害者福祉課	(委託)障害者基幹相談支援センター	障害
こども子育てサポートセンター		こども
生活支援課	(委託)生活自立支援センター	困窮
保健所	若者相談窓口「みらくる」	
地域福祉課	久留米市社会福祉協議会	
その他各課	成年後見センター	

多機関協働事業

複合・狭間の課題も受け止められる
よう、公的制度やインフォーマルな力
を活かしながら、チームで支援する
体制づくりを行う

重層

支援の選択肢を
車線で表現



「インフォーマル
(人と人のつながり)」

2つの車線が合わされば
本人の選択の幅が広がる

制度を使って
困りごとを
解決・軽減

個人的な関係
の中で困りごと
を解消

相談

複合・複雑な
課題を抱えても
相談先がある

誰かを支える
ときもある

訪問等

アウトリーチ事業

支援が届いていない人と
つながり、支援を届ける

重層

つながりによ

隣近所、自治

様々な支援活

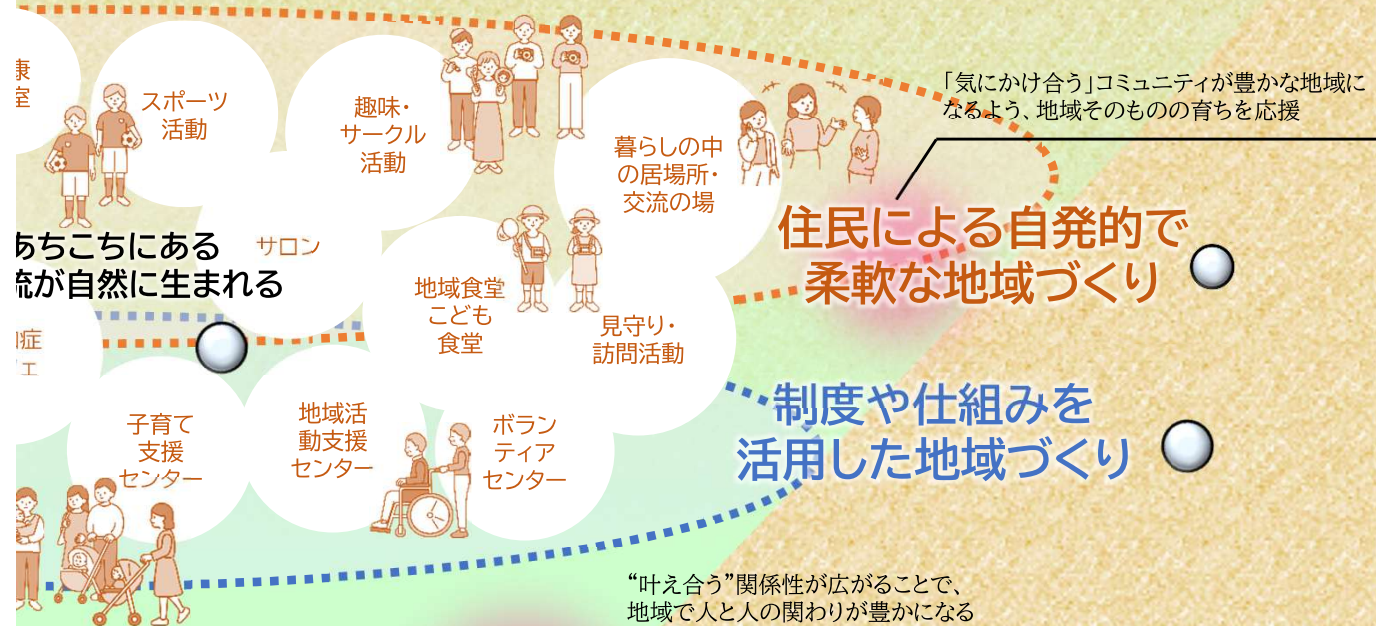
民生委員・児
校区社協等に
支援団体・市

社会福祉法人



みんなで作る 叶え合うところあふれるまち くるめ のイメージ図

基盤としての地域



加支援事業

を抱える個人・世帯と社会をつなぐ個別支援と環境(仕組み)づくりを行う

「な力」の車線 ・多様な関わり方

る支え合い

会・校区コミュニティの各圏域で

活動

委員による見守り活動
による小地域ネットワーク活動
民活動団体の活動

や企業の地域貢献



重層

“叶え合う” 関係性

それぞれの「願いを叶えたい」を活かす関係の中で、自然と困りごとが解消したり、自分らしく生きる力を得られる

災害に備えて

災害時に備えた、平時からの仕組みづくり (地域防災力の向上と共助意識のさらなる醸成)

避難行動要支援者名簿を活用した図上訓練の実施

- ・地域が要支援者について知り、顔の見える関係づくりが進む(図上訓練を通じて、地域で情報共有・支援する体制を確認)

地域住民や福祉専門職等による災害時マイプランの作成

- ・支援を必要とする人の特性を関係者が理解できる
- ・プランの作成を通じて社会資源(福祉サービスや市民活動団体等の活動)を知る

当事者を交えた官民協働による避難訓練などの実施

- ・地域住民同士、住民と福祉専門職等がつながる
- ・災害時に地域の様々な人や組織、団体が協働できる体制づくり

